

平成29(2017)年度
廿日市市との包括的連携協定に伴う
地域連携センター活動報告書

山陽女子短期大学

地域連携センター

平成 29（2017）年度地域連携センター活動報告によせて

山陽女子短期大学 地域連携センター長

丸川 浩

山陽女子短期大学に、広島県内の大学・短期大学に先駆けて、生涯学習センターが設置されたのは、平成元（1989）年のことです。平成 24（2012）年には、機能をさらに強化し、活動領域を広げた組織として、地域連携センターが設置されました。また、その翌年の平成 25（2013）年には、廿日市市との間に「包括的連携協力に関する協定」が結ばれました。

こうした経緯で設置された地域連携センターは、現在、生涯学習部門、産学連携部門、自治会部門が連携を取りながら、事業の運営を行っております。事業につきましては、本学の特性と地域からの要請を踏まえて、「1. 食と健康の増進」、「2. 教育・文化・生涯教育の推進」、「3. 地域の活性化・まちづくりの推進」、「4. 人材の育成」、「5. 環境活動の推進」、「6. その他の事業」の 6 分野で展開しております。また、事業を推進していくためには学生の参加協力が不可欠であることから、学内にボランティア委員会を設置し、学生のボランティア活動のサポートに当たっております。

廿日市市との協定締結の 5 年目に当たる本年度は、39 事業に関わりました（そのうち、実施あるいは参加の要請がなかった事業もあります）。実施・参加した事業の詳細については、本報告書に掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

本学地域連携センターの活動は、各方面のご協力によって、運営されています。この先も、廿日市市の各部署、佐方自治会の方々と協議を重ねながら、さらなる発展を目指す所存でございます。

今後とも、山陽女子短期大学地域連携センターの活動に対して、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29(2017)年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業

1. 食と健康の増進

実施時期に※がついている事業は、要請がなかったなどの理由によって実施しなかった事業

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
1-1	健康食品の利用に関する相談会	継続	※		恵野村	
1-2	災害時の栄養と食事に関する講座	継続	※	廿日市市福祉保健部	中東	
1-3	保健指導関連事業	継続	11月	五師会	中東	
1-4	SAT システムによる食事指導	継続	2月		鈴木	串戸市民センター

2. 教育・文化・生涯教育の推進

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
2-1	生涯学習フェスティバル	継続	11月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	津村	SAT、スイーツ販売
2-2	山陽女子短期大学公開講座	継続	5月～ 6月 11月～ 12月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	丸川	前期：統一テーマで、4回連続の開催。 後期：別テーマで、単発の講座を2回開催
2-3	佐方七福大学	継続	6月	佐方市民センター	丸川	講師：水野
2-4	パソコン基本操作	継続	3月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	章	
2-5	親と子の野菜スクール	継続	年6回	JA 佐伯中央	鈴木	

3. 地域の活性化・まちづくりの推進

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
3-1	街道まつり	継続	※	廿日市市郷土文化研究会	岡崎	
3-2	「大新の桶すし」の再復活	継続	12月	廿日市市商工会議所女性会 廿日市市郷土文化研究	津村 谷口(薫)	「食育インストラクター特論」として代替実施

				会		
3-3	まちづくり交流会 in はつかいち	継続	※	廿日市市協働推進課	岡崎	
3-4	県内産食材を使用した焼き菓子販売	継続	※	JAふれあい市場廿日市	西庄	
3-5	けん玉商店街“七夕まつり”	新規	7月	廿日市駅通り商店会	西庄	
3-6	廿日市市民センターまつり	継続	11月	廿日市市民センター	谷口(薫)	臨床検査学科 ラーメン販売スーパーボール
佐方1	れんげ祭り	継続	4月	佐方自治会	石永	全学募集 食べ物販売等
佐方2	すえひろ会	継続	7月	佐方自治会	平林	食物栄養学科2年生
佐方3	佐方夜市夏祭り	継続	7月	佐方中央商店街	岡崎	物販販売
佐方4	佐方地区敬老会	継続	9月	佐方自治会	石永	全学募集
佐方5	通学合宿	継続	※	佐方自治会	平林	食物栄養科 買い物・料理作りのサポート
佐方6	佐方花いっぱい運動	継続	11月	佐方自治会	石永	全学募集 佐方地区
佐方7	リトルシェフ	継続	11月	佐方市民センター	下地 西庄	食物栄養学科
佐方8	佐方子ども餅つき大会	継続	11月	佐方自治会	石永	全学募集 佐方八幡神社境内
佐方9	佐方地区とんど祭り	継続	1月	佐方自治会	石永	全学募集 佐方小学校校庭
佐方10	夏休みチャレンジ子ども教室	新規	8月	佐方市民センター 佐方小学校学校支援地域本部	石永	今年度追加事業

4. 人材の育成

整理番号	事項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
4-1	インターンシップの推進	継続	8月～ 9月		水野 鈴木	
4-2	診療情報管理士・医療事務員スキルアップ研修	継続	年6回		有吉	

4-3	医療機関機能別医療費説明会	継続	※		有吉	
4-4	ゼロからはじめる癌登録	継続	※		有吉	

5. 環境活動の推進

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
5-1	はつかいち環境フェスタ	継続	※	はつかいち環境フェスタ実行委員会	岡崎	
5-2	手指衛生等の出前授業	継続	※	廿日市市教育指導課	林田	
5-3	台所用品の衛生度チェック	継続	※		林田	
5-4	花粉飛散調査	継続	2月～3月		林田 岡村	

6. その他の事業

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学 責任者	備考
6-1	廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略	継続	※	廿日市市分権政策経営政策課	谷口(薫)	
6-2	地場産業との連携による商品開発	継続		廿日市市・吉和「魅惑の里」、(株)広電宮島ガーデン、濱本水産(株)、倉橋島海産(株)	岡崎	
6-3	ピンクリボン	継続	9月		中東	
6-4	エイズ啓発活動	継続	12月	広島県臨床検査技師会	小野寺	(追加：赤十字ボランティア活動報告)
6-5	ひろしまフードフェスティバル	継続	10月	JA 広島	西庄	
6-6	廿日市市消防団「機能別団員」	新規	4月～	廿日市市消防署	石河	30年1月14日に廿日市市消防出初式に参加

地域貢献・地域連携活動報告

1-3

活動名	保健指導関連事業：五師会
目的または趣旨	廿日市市住民に楽しみながら医療・保健・福祉について体験し、学ぶことができる催しに参加する。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市社会福祉協議会 経緯：五師会のメンバーとして、あいプラザまつりに学生と一緒に参加していただきたいとの要望があった。
年・日時	2017年11月5日
活動拠点	廿日市市総合健康福祉センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理コース 2年 2名
活動内容	市民に健康に関するクイズを解いていただく。参加賞として、業者から提供していただいたお土産をわたす。答を確認し、違っている所は解説をする。男性49人、女性143人計192名の方がクイズに参加し、盛況であった。また、10歳以下の子どもたちが35人と大人に混じって答えてくれた。10問中、全問正解者はいなかった。皆さんがあまり知らない問題を出しすぎたようだった。
反省・コメント	今回は難しかったようであるが、おもしろい問題だったので、多くの人に楽しんでもらえたと思う。開始して、早くに大勢の人がクイズに参加したので、参加賞の景品が1時30分にはなくなり、とても盛況だった。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> 無



地域貢献・地域連携活動報告

1-4

活動名	串戸市民センターまつり「あつまれ！こども秘密基地 2018」
目的または趣旨	廿日市市串戸市民センターで開催された地域イベントでの「SAT システムで栄養診断」コーナーの出展
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市串戸市民センター 経緯：お祭りに参加して、体験型イベントで会場を盛り上げて欲しい旨要望を受けた。
年・日時	2018年2月18日(日)、9:00～15:30
活動拠点	廿日市市串戸二丁目 13-13 「廿日市市串戸市民センター」
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	★食物栄養学科 鈴木 理 学生：食物栄養学科 2年生 4名
活動内容	廿日市市串戸市民センターで開催される「あつまれ！こども秘密基地 2018」への出展依頼を主催者側から受け、これを受けるかたちで食育活動として、「SAT システムを使った栄養診断」活動を行った。 本学ブースには、子供から保護者、高齢者と様々な年代の方々が訪れ、興味をもってこのシステムを体験しているようであった。本プログラムを体験した方々の食生活が、今後少しでも改善されれば幸いである。
反省・コメント	実質的には春休み中の時期でもあり、学生ボランティアの確保に苦慮した。卒業を目前に控えた2年生4名には、折角の休日を本プログラムに充てていただき感謝している。
添付書類	(有) ・ 無)



あつまれ！ こども秘密基地 2018

～まるごと冒険！
キャスランド～

オープニング
9:30～
・金剛寺小2年生による
鍵盤ハーモニカの合奏と合唱



2月18日(日) 9:30～15:00

場所 串戸市民センター



各ブースは10:00開始です。

絵本や紙芝居
(串戸市民センター
図書ボランティア)

出口はどこだ？
しりとり段ボール迷路
2月23日(金)までやってるよ
(金剛寺小学校PTA)

スリル満点！
お化け屋敷
100円
(駈流舞)

ロックソーラン
(駈流舞)

SATシステムで
栄養診断
(山陽女子短期大学食物栄養学)

おやこでフラ！
(KAUPLI)

レザークラフト
イニシャルを押してみよう
50円
(くさのみ作業所)

童謡 de 歌っておどろろ
くしどキッズ
(串戸市民センター主催事業)

けん玉
パフォーマンスと体験
(けん玉女子)

クラフトで遊ぼう
プレスレットやリース
50円
(クラフトプレジール)

ちりめんモンスターを探せ！
50円
(青少年夢プラン実行委員会)

ジャグリング
に挑戦しよう
(廿日市高校ジャグリング同好会+α)

昆虫や楽しい動物がいっぱい！
切り絵コーナー

人権コーナー
金剛寺小4年生
ポスター展示

駄菓子コーナー
10円～

くだもの
野菜即売会
(佐伯中央農業組合
廿日市西支店)

コーヒーコーナー
100円

ヨーヨー
わなげ
各100円
(駈流舞)

串戸保育園
作品展示

焼き菓子
100円～
(くさのみ作業所)

飲食ブース
お好み焼きなど
(串戸わいわい会)

授乳コーナー
お湯を用意しています

あつまれ！こども秘密基地 2018 実行委員会

金剛寺小学校PTA・キッズNPO・串戸地区人権啓発推進協議会・串戸地区自治協議会・串戸市民センター

(協力) 廿日市市教育委員会・くさのみ作業所・青少年夢プラン実行委員会

(一社)はつかいち観光協会・串戸わいわい会

廿日市市立金剛寺小学校・廿日市市立七尾中学校・広島県立廿日市高等学校・山陽女子短期大学

お問合せ 串戸市民センター ☎ 0829-32-2096

🚗 駐車場はありません 🚗





地域貢献・地域連携活動報告

2-1

活動名	第 27 回廿日市市生涯学習フェスティバル
目的または趣旨	フードモデルとパソコンによる食事バランスチェック
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市市生涯学習課 経緯：2010 年から毎年参加している。
日時	2017 年 11 月 5 日 10-15 時
活動拠点	廿日市市庁舎
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★津村なみえ 食物栄養学科 2 年生 3 名、1 年生 3 名
活動内容	昨年と同じ場所で、食育 SAT システムによる食事バランスチェックを行った。バランスチェック結果のプリントアウトと、学生による簡単な解説をその場で立ったまま行った。途中、イベントステージにおいて、司会者から質問される形式で出展の PR 時間をいただいた。開始直後は忙しくなかったが、昼ごろから終了まで人が絶えることなく、バランスチェック体験者は 190 名近くであった。
反省・コメント	昨年は他大学の出展で埋まっていた隣のスペースが本年は空いており、フェスティバル本部からも空きスペースを使えるなら使っても良いと言っていた。一昨年からの要望されていた『1 団体 1 テント』（スペース）の原則により規模を縮小していたが、柔軟に対応していただけそうな雰囲気であった。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

2 - 2

活動名	第 37 回 山陽女子短期大学公開講座 (2017 年度前期)
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
開催期間	2017 年 5 月 27 日 (土) ～6 月 17 日 (土) 毎回 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
運営者	全体の責任者：★丸川 浩 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	「廿日市学のすすめ」を統一テーマとし、全 4 回を、外部講師 3 名、 本学教員 1 名が担当して行われた。 一般参加応募者数：64 名
反省・コメント	今回は、健康系のテーマでなく、教養系のテーマを設定したので、応募者が少ないのではないかと危惧したが、60 名を越える応募者があった。講座終了時に行ったアンケート結果では、72.5%の受講者が「満足」「少し満足」と回答しているので、概ね好評であったと考えられる。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> (有) <input type="checkbox"/> (無)

第 37 回 山陽女子短期大学公開講座（2017 年度前期）



講座の様子（第 1 回）



講座の様子（第 2 回）

地域貢献・地域連携活動報告

2-2

活動名	第 37 回 山陽女子短期大学公開講座 (2017 年度後期)
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	第 1 回 2017 年 11 月 25 日 (土) 13:30～15:00 第 2 回 2017 年 12 月 9 日 (土) 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員 (責任者には★) 学生 (所属・学年・人数)	全体の責任者：★丸川 浩 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	第 1 回「広島のかき養殖とその歴史」をテーマとして、第 2 回「『肺について』～息の長いお話～」をテーマとして、本学教員が講師となって開催した。 一般参加応募者数：第 1 回 15 名 第 2 回 26 名
反省・コメント	テーマが、若干、地味であったこともあつてか、あるいは開催時期のせいもあつてか、期待以上の受講応募者とはならなかった。アンケートによる満足度は、2 回分で 62.5%と、まずまずの結果を得た。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> (有) 無)

第 37 回 山陽女子短期大学公開講座 (2017 年度後期)



講座の様子 (第 1 回)



講座の様子 (第 2 回)

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 3

活動名	佐方七福大学 高齢者学級
目的または趣旨	佐方地区で開催されている佐方七福大学の方々に、文学に登場するあっぱれな老人たちの生き方をお話した。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方市民センター 経緯：高齢者学級に人間生活学科としてお話しできる身近な問題について、講演の依頼を受けた。
時期	平成 29 年 6 月 22 日
活動拠点	佐方市民センター
参加者	水野 敦子
活動内容	<p>「文学の中のあっぱれな老人たち」という題で、アメリカ文学と日本文学に登場するあっぱれな老人たちの生き方について話した。</p> <p>アメリカ文学では、アーネスト・ヘミングウェイの「老人と海」とウィリアム・フォークナーの「熊」を取り上げ、両作品に登場する老人が、厳しい自然の中で最後まで生を燃焼させる高貴な生き方を解説した。</p> <p>日本文学では、深沢七郎の『檜山節考』、有吉佐和子『恍惚の人』、田辺聖子の「姥さかり」シリーズ、津島佑子などの現代女流作家の描く山姥的女性像について話し、日本の老人像の変遷を概観した。</p>
反省・コメント	たくさんの作品を取り上げ、時間が足りず、もう少し、作品を絞って話した方がよかった。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無)



地域貢献・地域連携活動報告

2-4

活動名	パソコンの操作と活用 ～家計簿を作る～
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会・生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	2018年3月16日（金）13:30～15:30
活動拠点	山陽女子短期大学
運営	全体の責任者：章 情報センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	高齢者を対象として、パソコンの入門講座を行った。講師は、本章教授で、学生アシスタント5名、教職員4名を配置し、廿日市市教育委員会生涯学習課の職員の方にもアシストしてもらい、参加者はパソコンを操作しながら受講した。 一般参加応募者数：48名（抽選により25名を選抜した）
反省・コメント	早くから、本章地域連携センター委員、講師と事前の打ち合わせを行った。毎年、前年度の反省をもとに改善を図っている結果、アンケートによる受講者の満足度は、年々上昇している。学生アシスタントも、受講者に、まずまず好評だった。受講生の習熟度に差があること、進行のスピードが速いことなどの問題点を、次年度以後は解消するよう検討していきたい。
添付書類	(有) 無)

パソコン講座



講座の様子

地域貢献・地域連携活動報告

2-5

活動名	JA 企画「第 10 回 親と子の野菜スクール」
目的または趣旨	野菜の植え付けから栽培、収穫、調理までの一連の過程を通じ、「地産地消」「農業の魅力」を体験する。
主催団体名	佐伯中央農業協同組合
期日（期間）	①2017年5月20日（土） ②2017年6月3日（土） ③2017年8月19日（土） ④2017年10月7日（土） ⑤2017年12月2日（土） ⑥2018年1月27日（土）
活動拠点	①②③④⑤廿日市市津田 3231-1「JA ふれあい農園」 ④玖島市民センター ⑥廿日市市津田 4218「さいき文化センター」
参加者	○食物栄養学科 1 および 2 年生、11 名 ○担当教員：食物栄養学科 鈴木
活動内容	毎回 JA 佐伯中央が管理する「ふれあい農園」まで足を運び、5月～12月まで全6回にわたり、「地産地消」「農業体験」をテーマに各種野菜の種まきや苗つけから栽培、収穫、調理までの一連の作業を体験した。さつまいも、大長なす、大根、白菜など地元農家の協力を得ながら、さらには本企画に参加する地元の家族との交流を持ちながら食農体験ができた。企画最終日には「調理編」と称し、本学学生が調理の講師となって、「さつまいもご飯」「白菜のスティック餃子」「大根と小松菜の中華スープ」「はつかいちゴロツとアイス」づくりのデモ、および実地指導を行い、日頃の学習の成果を発揮する時間が得られた。学生らには全6回を通じ、教室内では決して経験することのできない貴重な食農・食育経験の場になったのではないかとと思われる。

<p>反省・コメント等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月～翌1月まで計6回に渡る長期のプログラムであったが、その都度その都度で参加できる学生にばらつきが生じ、11名が揃うことがなかった。このため全体をコーディネートするJA佐伯中央担当者に迷惑をかけてしまうこととなった。 ・当初は全7回の予定であったが、9月に台風接近のため中止となることがあり、全6回となった。
<p>添付書類</p>	<p>有</p>



第10回 親と子の野菜スクール

親と子の野菜スクールでは、親子で種まき・植付・収穫・料理までの体験を通じて、次世代を担う子どもたちに食と農の大切さを伝えています。

実施場所 ふれあい農園(廿日市市津田3231-1) 田植え(廿日市市玖島地区)

募集対象者 原則全ての日程に参加できる方
農業や料理に興味があり参加家族といっしょに体験していただける方

募集人員 10人

参加費 無料



昨年の様子

申込期限 平成29年4月28日(金)

参加申込 下記申込書に必要事項をご記入の上、学校でとりまとめのうえ、JAにお申込みください。
なお、お申込みいただいた際に取得する個人情報、スクールのご連絡や各種JA事業のご案内にのみ使用させていただきます。

その他 ○野菜スクールの詳細・日程は学校に別途郵送にてご通知します。
○参加風景はJA広報誌やホームページなど各メディアで報じられる場合があります。
○詳細については総合企画課までお尋ねください。

日 程(予定)	1回目	2017年5月20日(土) 9:00~15:00 昼食あり 開校式 植付(大長ナス、ピーマン) 種まき(エダマメ) 田植え
	2回目	2017年6月3日(土) 9:00~14:00 昼食あり 植付(サツマイモ) 工作(旗)
	3回目	2017年8月19日(土) 9:00~12:00 収穫(大長ナス、ピーマン、エダマメ)
	4回目	2017年9月9日(土) 9:00~12:00 収穫(大長ナス、ピーマン) 植付(ハクサイ) 種まき(ダイコン)
	5回目	2017年9月30日(土) 9:00~15:00 昼食あり 収穫(サツマイモ) 稲刈り
	6回目	2017年12月2日(土) 9:00~12:00 収穫(ダイコン ハクサイ)
	7回目	2018年1月27日(土) 9:00~14:00 料理教室(収穫した野菜や地場野菜を使用)・閉校式

※野菜の生育状況や天候、会場の都合により実施日が変更となる場合がありますのでご了承ください。

主催/佐伯中央農業協同組合 事務局: 総合企画課 廿日市市宮内4473-1 ☎ 0829-39-3211

..... 切り取り線

総合企画課 行

第10回 親と子の野菜スクール参加申込書

参加者情報	●住所	〒					
	●電話	— — (自宅・携帯・その他)					
	●緊急連絡先住所	〒					
	●緊急連絡先電話	— — (自宅・携帯・その他)					
	氏名	性別	年齢	血液型	学科・コース	学年 (4月1日現在)	
	フリガナ						
備考欄							







地域貢献・地域連携活動報告

3-2

活動名	「桶寿司」講習会
目的または趣旨	廿日市市に伝わる桶寿司の歴史を知り、復活した桶寿司のつくり方を学ぶ。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市郷土文化研究会 経緯：郷土文化研究会正木様から重田先生に依頼があり、桶寿司文化の継承のため、2012年から毎年開催している。
日時	2017年12月15日(金)9~13時
活動拠点	本学総合調理実習室
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員 ★津村なみえ 学生 食物栄養学科2年生8名
活動内容	郷土文化研究会、廿日市市商工会議所女性会(合計8名)ご協力のもと、廿日市市に伝わる「桶寿司」のつくり方を教えていただきながら作った。重石をのせて漬け込む合間によもぎ餅も作った。 桶寿司とは何か、桶寿司を復活させたときのいきさつなどを聞き、談笑しながら出来上がった桶寿司をいただいた。
反省・コメント	学生たちも質問や味見をしながら楽しそうに作っていた。年の離れた方達とも和気あいあいと会話・交流ができていた。 食育インストラクター授業の一環として行っており、今回は授業履修者のみの参加であったが、その他の学生の参加も歓迎している。参加者が増えるようさらに呼びかけて実施したい。 来年度の商工会議所女性会の方の協力人数は減る予定。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

3-5

活動名	けん玉商店街「七夕まつり」
目的または趣旨	七夕まつりにて焼き菓子の販売を行う
共催団体名	廿日市駅通り商店会 青年部部長 天野晃寛
時期	2017年7月7日(金) 14:30~20:00 2017年7月8日(土) 17:00~21:00
活動拠点	けん玉商店街(飲食ブース:桑原旅館北側駐車場)
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	★西庄 栄養管理コース2年1名、栄養調理コース2年生3名
活動内容	7日:ブルーベリーヨーグルトカップケーキ、トマトキャラメルパウンドケーキ、スノーボールを作成、包装。ポスターの作成。 8日:水風船やテント張りなど設営のお手伝いをしたのち、焼き菓子の販売を行なった。販売終了後、片付けを行ない解散とした。
反省・コメント	今年度からの参加でどの程度の規模かわからず、あまり用意しなかったため、とても早い段階で売り切れてしまった。また、担当の方と連絡がうまくとれておらず、当日になってバタバタとしてしまった。 夜からの活動なので学生集めが少し難しかった。 当日は水風船作りなど、普段やらないようなことを経験させていただき、とても楽しく準備ができた。学生も交代で休憩を取り、祭りの雰囲気を楽しんでいた。 次回は焼き菓子の数量をもう少し考えなければいけないと感じた。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)



地域貢献・地域連携活動報告

3-6

活動名	廿日市市民センターまつり
目的または趣旨	廿日市市民センターで開催された「市民センターまつり」へのバザー出店
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市民センター 経緯：お祭りに参加して、盛り上げて欲しい旨要望があり、バザーを出店した。
年・日時	平成 29 年 11 月 25.26 日
活動拠点	廿日市市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★谷口 薫 学生：臨床検査学科 1 年生 10 名 2 年生 2 名
活動内容	はつかいちまちづくり協議会より、年 1 回開催される廿日市市民センターまつりに、バザーならびにボランティアの協力要請があった。 25.26 日(土.日)にバザーを出店した。ラーメン屋とスーパーボール掬いの 2 店舗を出店した。 ラーメンは当初 1 5 0 食の依頼であったが、好評で追加購入して、2 5 0 食を販売した。 スーパーボール掬いも他に遊戯的なものが無かったので、子供たちが大勢集まり、大反響であった。
反省・コメント	次回に協力出店する場合は、他のバザーの出店状況も考慮して、材料等の準備を進める必要があった。 本学のバザーは、大好評であった。
添付書類	(有) (無)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方 1

活動名	「第 15 回れんげ祭り in 佐方」(2017 年度)
目的または趣旨	佐方自治会行事へのボランティア活動として参加
共催団体名および 共催の経緯	主催：佐方アイラブ自治会 コミュニティ事業局 経緯：昨年度からの継続
日時	2017 年 4 月 29 日水曜日 8:30-15:30 時
活動拠点	城内 2 丁目 JR 線路沿い北側 空き地 (セブンイレブン前)
参加者 教員 (責任者には ★) 学生 (所属・学年・ 人数)	教員：★石永 食物栄養：10 名 臨床検査：31 名 計 41 名 狭い場所だったので 40 名ほどに人数制限を行った
活動内容	
反省・コメント (学生の感想も含 めて)	会場が従来場所から移動したため狭い場所になり、ブースが取れないことになり、短大独自のクッキー販売を中止した。3 月下旬に判断したためその準備をしていた教員学生には迷惑を掛けた。 食品を扱う場合には、簡易の帽子、マスク、手袋、エプロンを用意した。感想は別添付
添付書類	(有 無) 写真 感想文



H29 年度れんげ祭りボランティア活動の感想

山陽女子短期大学

* れんげ祭りは毎年参加していたので、本年も参加できて楽しかったです。販売の仕事では、お客さんに明るく笑顔で大きな声を出して接することが、重要なので普段やらないことを経験できてよかったです。

* れんげ祭りを通して、人とのコミュニケーションの大切さや、何か言われてから動くのではなく、自分から何をすれば良いか、積極的に尋ね動くことを次回からもっとして行こうと思いました。

* 効率よく作業が出来たと思う。しかし地域の方々とあまりコミュニケーションが取れなかったのが残念だった。今後地域のボランティアに参加する際は、もっとコミュニケーションが取れるようにしたい。

* 今回は初めて地域の企画のボランティアに参加してみて、改めて地域の人たちの温かみを感じることができた。将来社会人となった時、自分も積極的に地域の活動に参加していきたい。

* 一緒に販売した中学生とうまくコミュニケーションが取れたと思う。でも 7 時間近くもあったので、前半の担当と後半の担当に分けたりするなどの工夫をしても良かったかもしれない。買いに来た子供達と同じ目線で話せたことも良かったと思う。

* 佐方の人々の地元愛を感じました。昨年も参加し、今年は場所が変わっての開催でしたが、多くの方が来られていて、少し忙しかったです。うどんも無事完売で、しっかりとお手伝いのできたので良かったです。

* うどんの手伝いをしましたが、人数が多かったので役割分担をしたということで、みんな協力して行うことができた。今回はあまり地域の方と関われなかったのが、次回のボランティアでは関わりを持ちたいと思った。

* 私はうどんを作ったり売ったりしました。たくさんお客さんが来てくれて「頑張るね」と言われたときはすごく嬉しくて、もっと頑張ろうと思いました。さりげない一言で相手を元気づけることができるんだなあと改めて感じました。

* うどんの販売はスピードが求められるため、手際よく早く行動するように心がけた。昼前はお客さんが多く次々と注文が来たため、しっかりと暗記して間違えないように一つ一つ丁寧に仕事をこなした。

* 今回は、れんげ祭りで焼きそばの屋台のお手伝いをしました。日頃あまりお話をすることのないおじさんおばさんと話せることができとても楽しかったです。中学生とも仲良くなれて良かったです。

* 今回の活動では、ジュースの販売のお手伝いをさせていただきました。何かを売ることは、今の実習期間中ではありませんが、接客することで、その場その状況にあった言葉遣い対応を学ぶことができました。このことを理解していきたいと思いました。

* 今回中学生の子達と一緒に食品販売の手伝いをさせていただきました。その子たちの一生懸命祭りを手伝う姿や、誠実に物事に接する姿勢に、今の私たち大学生に足りない熱心さを感じ、是非とも見習わなくてはいけないと思いました。初心を忘れずに、今度は先輩としてお手本になるよう頑張りたいです。

* ボランティアで中学生や地域の方達と協力して、食品販売をすることができて、とても良い経験ができました。これからもいろんなボランティアに積極的に参加して、たくさんの方の役に立ちたいと思いました。

* 子供がたくさん祭りに来てくれて綿菓子を買ってくれました。私は綿菓子をあまり作らず、お金やサービス券と綿菓子を交換する役割をしていました。この活動を通して子どもからお金をもらう時、子供の目線まで腰をかがめて、何個必要でお金がいくら必要かなどを説明したり、多くの方が綿菓子を買いに並んでくださったときに「2列にお並びください」という掛け声や、手を使って並ぶところを子供に示してあげることができました。今回の活動の中で、多くのお客さんが並んでいる際、1人の男の子からお金をもらっていないのに綿菓子を渡してしまいました。その時男の子のお母さんが、気が付いてくださり、お金を頂きました。今後こんなことが起きないように努めたいです。

* 子供達が楽しめるように、応援したり盛り上げ、飴をあげたりしました。子供たちにありがとうと言われた時は、とても嬉しくてやりがいを感じました。最初の準備は中学生がしてくれたので感謝しています。

* 去年は参加しなかったのですが、今回初参加となったれんげ祭りでしたが、多くの方が来場して商品が売れたので、とてもやりがいがありました。また地域の方や同じ学科の1年生とも交流することができたのでとても良い機会になったと思いました。

* ちゃんと場所を把握して、あそこだろうと決めつけるのではなく、確認することが大切だと感じた。販売ではいつもお祭りでは買うほうなので、売る人の忙しさを知ることができ良い経験になった。

* コミュニケーションの重要性や、思いやりの心をもって気配りを行うことが、社会性を身につける上で大事だということを学びました。また、地域の方々に支えられて学校生活を送ることができている、というのを改めて感じることができました。今後は、より積極性を高めて活動を行っていきたいです。

* 小学生や地域の方と交流する機会はあまりなかったので、充実した一日になりました。先輩との交流できてよかったです。改善点としては片付けをもっと自分から率先して行えばよかったですと考えます。

* どうしたら楽しんでもらえるか考え工夫しながら活動をしました。子供たちが、とても楽しそうで見ている私も笑顔になれました。地域の方と協力しながら活動することができ良かったです。

* 今まで地域のお祭りは、参加する側でただ楽しませてもらっていただけでしたが、今回ボランティアをしてみて、地域の多くの人の方があってこそ成り立っているお祭りだったんだなと感じました。支え合って生きているということを改めて感じることができました。

* ほとんどお祭りの手伝いをしたことがありませんでしたが、今回お手伝いをさせて頂き、販売や接客など普段なかなかできない経験をすることができました。とてもやりがいがあり、ボランティアをして良かったなと思います。

* 1日中ボランティアをしたのは初めてでした。地域の人々の交流はとても楽しく温かさを感じました。また喜んでもらえてとても嬉しかったです。今回は少ししか協力できなかったのですが、次はさらに積極的に参加して協力できるよう努力しようと思います。

* 初めて地域のボランティアに参加して、地域の方がとても優しく、たくさん話しかけてもらって良かったです。また中学生の子たちとも仲良くなれて、自分たちの通う地域の方と交流できて良かったです。

* 昨年もれんげ祭りに参加をして、本年も販売の手伝いをしてみて地域の方と多くの交流ができたことや、食商品を完売できた時の達成感があって、ボランティア活動に参加できて良かったなと思います。またボランティアに参加したいです。

* 地域の方々と一緒に食品のお手伝いをして、皆さん暖かく教えてくださり楽しくすることができました。今後の課題は、自ら声を掛けて手伝いをするのができたら良いと思いました。最後まで片付けをし終わることができることです。

* ボランティアを通して、お店というのは 1 人ではなくみんなで協力しないと成立しないということを学びました。中学生が一生懸命働いているのを見て、自分も負けじと働けばならないと思いました。もう少し積極的に動きたいと思います。

地域貢献・地域連携活動報告書

佐方2

活動名	平成 29 年度「すえひろ会」の食事会 (佐方自治会行事への積極的参加)
目的又は趣旨	毎年 1 回、廿日市市佐方地区在住の「一人暮らしの 70 歳以上の高齢者」を大学に招待して食事の提供と食事指導を行っている。 目的は高齢者の方々を大学に招き、学生達との交流することにより社会とのコミュニケーションをはかること、また食事の提供による、食育をおこなうことで健康な食生活をおくってもらうことである。
協賛団体名および協賛の経緯	廿日市市教育委員会 廿日市市福祉協議会 佐方アイラブ自治会 連絡責任者 福祉事業局長 生川 佳代子様
年・日時	2017 年 7 月 21 日(金)
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員(責任者★) 学生(所属・学年・人数)	すえひろ会 24 名・佐方アイラブ自治会 4 名 廿日市市教育委員会 2 名 廿日市市福祉協議会 2 名 担当教員 ★平林 眞弓 ・濱本 沙織 参加教員 学長・他食物栄養学科教員 5 名 学生 食物栄養学科 栄養管理コース 2 年生 34 名 計 32 名 計 42 名 合計 74 名
活動内容	11:45 大学の送迎バスですえひろ会の皆様が到着 12:00 学生・教員と一緒に歓談をしながらの食事会 13:00 大学の送迎バスで帰途に着く 食事の献立:いなり寿司・天ぷら・茶碗蒸し・とろろ蕎麦・フルーツ杏仁
反省・コメント	1 テーブル 5~6 名で、高齢者と学生、教職員の組み合わせで行い、地域の話や学校の話、近況報告や提供した食事の話など、年齢の離れた方との交流を図ることができた。毎年楽しみに来られている高齢者の方もおられ、食事についてもとても満足されていた。
お礼	学生代表 阿部 小織 生川様に礼状
添付書類	写真等



地域のコーナー

29年度 佐方地区 敬老会

敬老会実行委員会

佐方地区在住の高齢者（75歳以上）を対象に“佐方地区敬老会”を実施し、長寿をお祝いするとともに、佐方地区の高齢者福祉の推進を図る。

とき 9月18日(月) 祝日(敬老の日) 10:00~11:50

ところ 佐方市民センター

日程 9:00~受付 (佐方市民センター入口) 及び記念品配布
 10:00 開会
 10:20~アトラクション①佐方獅子舞 ②佐方保育園園児、③佐方小学校児童
 ④廿日市中学校生徒⑤ギヤピーハット ⑥コーラス⑦リコーベ
 11:50 閉会

主催 佐方アイラブ自治会 佐方地区敬老会実行委員会 後援 佐方市民センター 佐方会館

お茶の会 ~福祉協力部~

東四丁目集会所 9/26(水) 13:30~15:00
 西三集会所 9/26(水) 13:30~15:00
 南ふれあいプラザ 9/15(金) 13:30~14:00
 北三丁目集会所 9/19(水) 13:30~15:00

申込み・登録は不要。
 参加費はふれあいプラザは無料で、その他はお茶とお菓子付で100円です。

男性料理教室

9月はお休みです。

佐方子どもおもしろ広場

9月の行事 ~絵手紙をしよう~

【とき】 9/9(土) 9:30~10:30 予定

【ところ】 佐方市民センター

【定員】 15名(先着順)

【参加費】 100円

【申込み】 9月1日(金) 9:00より受付
 *電話での受付はできません。

主催 佐方アイラブ自治会 住民福祉事業局
 青少年育成廿日市市民会議

~すえひろ会 山陽女子短期大学の食事に招待~

7/21(金)に山陽女子短期大学からすえひろ会へ食事のご招待がありました。今回で6回目です。食物栄養学科の学生によって栄養のバランスを考えた食べやすいメニューで調理されました。学生から料理の説明を受け食事しながらふれあう機会ができました。すえひろ会のみさんから、「塩分控えめでとても美味しかったです」「みんなで食べ、とても美味しい、いい勉強になりました」学生さんから「地域の方にとっても嬉しい、いい勉強になりました」と各テーブルから楽しそうな会話がまりました。

食事で、短大の地域貢献活動の学生さんと高齢者のみなさんが楽しみながらつながりができたことは大変良かったです。



カレンダー

9月の予定	
1日(金)	佐方小学校、廿日市中学校 始業式
3日(日)	防災訓練
4日(月)	あいさつ運動
7日(木)	いきいき健康体操
9日(土)	佐方子どもおもしろ広場
12日(火)	すえひろ会配食
14日(木)	被爆者定期健康診断(午後)
16日(土)	リトルシエフ (休館日)
18日(月)	佐方地区執事会
20日(水)	絵本大好き
21日(木)	いきいき健康体操・七福大学
23日(土)	休館日(秋分の日)

10月の予定	
2日(月)	あいさつ運動
5日(木)	いきいき健康体操
7日(土)	佐方八幡神社秋祭り(奉納神楽)
8日(日)	佐方八幡神社秋祭り(子ども会御禮)
9日(月)	ほうりり幼稚園運動会(休館日)
10日(火)	すえひろ会会食
14日(土)	佐方子どもおもしろ広場
15日(日)	佐方親睦運動会・男性料理教室
18日(水)	すえひろ会配食
19日(木)	いきいき健康体操・七福大学
20日(金)	市民センターまつり準備
21日(土)	市民センターまつり
22日(日)	通学台宿
23日(月)	佐方っ子フェスティバル
28日(土)	いきいき健康体操
29日(日)	廿日市中学校文化祭

住民福祉事業局

~いきいき健康体操の紹介~高齢者活動部~

佐方地区でも毎年高齢者が増加して現在30%を超えています。加齢と共に起きる筋肉・筋力の衰えにより、今までになかった「肩こり・ヒザ痛・腰痛」に悩まされ通院している人が年々増えています。高齢者活動部では毎月第1・第3木曜日(次回以降は以下)の通り、佐方市民センターにおいて、いきいき健康体操を行っています。平素、運動不足になりがちな各関節「肩・腰・ヒザ」と筋肉を「ほぐす」ため、上半身から下半身までの整理体操を行います。次に、筋力トレーニングは自分に合った体力強化をはかるため、ポール・タオル・タンベル・リズム体操を取り入れて変化をつけながら、肩こり・腰痛・ヒザ痛部分の強化を図っています。最後に、問題となる加齢による物忘れ防止をはかるため、頭の体操「コクニ体操」のトレーニングも合わせて行っています。健康は自分で行うものです。



【とき】 9月7日(木)、21日(木)
 10月5日(木)、19日(木) 各回 10:00~11:30

【ところ】 第1・第2研修室、多目的室

【指導者】 NSCA認定パーソナルトレーナー

【参加費】 無料

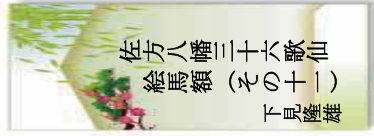
【持参物】 運動しやすい服装、靴、飲み物等

安心安全事業局

〇ごみ収集場所パトロールのお知らせ 環境衛生部 西ブロック 10/7(土) 予定

佐方維持管理事業のお知らせ

〇畑寺線の緑地帯の草取り: 9/10(日)、9/24(日)の8時からです。雨天時は、翌々日の火曜日の9時からです。



南(3) 城上忠郎 九世紀後半
 十世紀頃、坂上田村麻呂の四代の孫。
 歌人名(右端)は確認できませんが、絵柄はやや不鮮明。顔の表情も不明確。和歌もほとんど判読不可能。なんとかよめそうな傍線部分から、次の和歌と推定します。

みよしのの山の白雪つもるらし
 ふる里さむくなりまさりゆく冬か
 深まつて吉野の山には雪が白く降り積もつてゐるらしい、ここ奈良の古い都では寒さが、日一日とつりつあります。(『古今集』)

南(4) 大中臣能宣 九九一没、頼基の子。
 歌人名(右端)は判読できませんが、絵柄は、目鼻部分だけが、かろうじて消え残っている。和歌部分は、消えた文字が多いものの、判読できる傍線部分から、次の和歌と推定します。

南(3)



南(4)



千とせまでかきれる松もけりよ
 りはきみに引かれてよづゆ
 や 納む 千年の寿命を持つとよ
 れる松も、子の日の今日、盛運のあなた様に
 根引きされたからには、万代までも生き長ら
 えることでしょう。(『拾遺集』)

注 前回、南2「金輔」は「兼輔」に訂正



地域貢献・地域連携活動報告

佐方3

活動名	「佐方夜市夏祭り」に出店
目的または趣旨	地域連携：佐方自治会行事への参加の一つ
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	佐方自治会の佐方夜市活性化委員長新田茂美氏と相談して、今年度から佐方市民センターの「ちびっこ広場」で出店することとなった。
年・日時～年・日時	クッキー作り：2017年7月13日 14時40分～ 14日 10時00分～ 販売：2017年7月15日 17時30分～20時30分
活動拠点	・クッキー作りと袋詰めは本学の調理実習室で行った ・クッキー販売は佐方市民センター前の広場 (建物側の屋根付き広場、テーブル1卓：センターが用意)
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員 ★岡崎教授・石永教授・中尾准教授・松本助手 クッキー作り：食物栄養学科1年8名、2年3名 人間生活学科2年3名 販売（当日）：人間生活学科2年3名、食物栄養学科1年8名
活動内容	食品開発コースの学生が1ヶ月以上も前から計画・試作を繰り返して、風味に特徴のある3種類のクッキー（プレーン、くるみ&ココア、抹茶のスノーボール）のレシピを完成させた。このレシピを元に前日にクッキーを約120袋分作成し、包装を行った。 当日は本学に一度集合した後、夏祭りの会場（ちびっこ広場）へと向かった。広場では、ブースの清掃・設営の後、広場で販売するグループとフラワー通りを売り歩くグループの2つに分かれて販売を行った。学生は元気に声を張り上げ、試行錯誤しながらクッキーを買っていただくようにアピールしており、両グループともそれぞれ早々に完売した。蒸すような暑さの中ではあったが、いずれの学生においても怪我をしたり、体調不良になることもなく、ブースの片付け、荷物の運搬の後、本学で解散した。
反省・コメント	夏の夜に冷たい物が多く販売されている中で、クッキーへの関心を高めるため、「家で待っている方への土産にどうぞ」という戦略で販売したところ、スムーズに販売できた。
添付書類	(有) 無)

○レシピ

3種のスノーボールクッキー

材料

○ プレーン（約 40 個）

薄力粉	170	g
アーモンドパウダー	40	g
バター	90	g
グラニュー糖	50	g
粉砂糖		適量

○ 抹茶（約 40 個）

薄力粉	165	g
抹茶	5	
アーモンドパウダー	40	g
バター	90	g
グラニュー糖	50	g
粉砂糖		適量

○ くるみ&ココア（約 44 個）

薄力粉	150	g
ココア	20	g
くるみ	70	g
バター	90	g
粉砂糖	50	g
粉砂糖		適量

<下準備>

- ・粉類を合わせて袋に計量する
- ・バターを 1cm 角に切り冷蔵する
- ・くるみを袋にいれ、麺棒で細かく粉砕する

作り方

1. フードプロセッサーに薄力粉（ココア・抹茶）・アーモンドパウダー・砂糖を入れ回す。
2. バターを加え、軽くまとまるまで回す。 ※ココア生地は少し粉気が残る程度まで
3. 生地を取り出してラップに包み、冷蔵庫で 30 分休ませる。
4. ココア生地はボウルに取り出し、砕いたくるみとよく混ぜ合わせながら生地をまとめ、ラップで包んで冷蔵庫で 30 分休ませる。
5. 休ませた生地を丸めて（1 個 8g）天板に並べ、170℃に予熱しておいたオーブンで約 14 分焼く。
6. 焼きあがってあら熱が取れたら粉砂糖をまぶす。

○写真





地域貢献・地域連携活動報告

佐方4

活動名	地域連携事業：佐方地区敬老会
目的または趣旨	佐方地区にて開催される敬老会に人手がいるため、また地域の方との交流を図るために参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：地域連携活動として、佐方自治会と協議し昨年と同様に、敬老会の催しにボランティアとして協力することになった。 スタッフとして、人間生活学科、食物栄養学科、臨床検査学科の学生が担当する。
年・日時	平成 29 年 9 月 18 日(9 月 17 日前日準備有り)
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★石永正隆 18 日 人間生活学科 4 名 食物栄養学科 3 名 臨床検査学科 4 名 19 日 人間生活学科 5 名 食物栄養学科 2 名 臨床検査学科 2 名
活動内容	例年通りの作業であった。 配布のお土産を流れ作業で、袋に詰めていき、段ボールの中およびテーブルに並べる。会場案内係り、アトラクションの呼出し係り及び控室係を行った。 小中学生が敬老会に出席されるご老人を入り口までの案内、それを受けて会場の席まで、できるだけつめて案内する。会開始後は、お年寄りを見守る役を短大生が行なった。来場者に明るく挨拶し、声かけを行った。 会が終了後、来場者のお見送りを並んで行う。後片付けで、椅子の収納、床掃除などを行う。
反省・コメント	みんな元気にやってくれていたようで、自治会の方々からお礼の言葉を頂いた。
添付書類	有 無)

2017年敬老会ボランティア感想

人間生活学科

- ・敬老会に参加し、小中学生や山陽女子の1年生や敬老会に来られた方など、様々な世代の方と交流できてすごく楽しかったです。また機会があれば参加したいです。
- ・今回のボランティアは敬老会のお手伝いに参加しました。主な仕事は、お弁当やお茶の袋詰めと出し物をする方の呼び出しでした。ご年配の方にありがとうとお礼を言われて嬉しくやって良かったと思いました。
- ・18日に行われる敬老会の準備及び当日の運営のお手伝いをしました。色々な人と協力して行うことが大切だと感じました。
- ・普段老人の方と関わる事がなかなかないので、今回のボランティアで関わる事が出来て良かったです。またスムーズに進行できるようきちんと動けたので良かったです。
- ・地域の方と交流ができて良かったと思います。地域のイベントは多くのボランティアの方の力で成り立っていることを知ることができました。

食物栄養学科

- ・今回のボランティアに参加し、下は保育所の子から幅広い年代の方々がボランティアに参加していて、すごいなあと思いました。ボランティアが終わり、地域の方にお礼を言われ、やって良かったなあと改めて感じました。地域の人と係わることはなかなかないので、良い体験になりました。
- ・佐方の方はみんな優しくかった。逆にお年寄りの方から元気をもらえた。佐方でまたボランティアをしたいと思いますような1日でした。もっと佐方の地域の人と関わるボランティアをたくさんしたいです。

臨床検査学科

- ・敬老の日に敬老会があるのを今回知って、式にも参加させていただきました。楽しめるように体操や園児の歌もあって、参加することができて良かったと思いました。
- ・自分がその場でできることは何かを、その場で考えて動くことが大切だと感じた。作業がなるべく早く終わるように、協力することが大切だと感じた。
- ・佐方の方の敬老会は、すごくたくさんの方が参加するんだなと思いました。280名のお年寄りが参加して、とても元気で良いことだなと思いました。もっと元気でいて欲しいです。
- ・敬老会に来られた方は、みんな笑顔でした。小学生による歌や中学生による演奏、コーラスの方たちによる歌で、お年寄りも一緒になって歌を歌っていて良いことだなと思いました。

地域貢献・地域連携活動報告

佐方6

活動名	「佐方花いっぱい運動」
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとして「佐方花いっぱい運動」にボランティアとして参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：佐方自治会と協議し、決定した参加行事の一つ
年・日時～年・日時	2017年11月4日（土）8時10分～10時
活動拠点	佐方地区 セブンイレブン近くのJR踏切付近
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★石永正隆（入試のため確認しただけ） 人間生活学科2年2名 臨床検査学科1年1名
活動内容	昨年定刻に行ったときはほぼ終了していたので、今年は20分前から集合場所に行った。既に自治会の方は作業をしていた。道路の要所要所に子ども達や自治会の人達と花を植えた
反省・コメント	
添付書類	無



地域貢献・地域連携活動報告

佐方7

活動名	リトルシェフ（小学生対象の料理教室）
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとしてリトルシェフにスタッフとして参加
共催団体名および	主催：佐方市民センター
日時	2017年11月25日（土）8時20分～13時 佐方市民センターにて下準備、実習、片づけ
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★下地准教授、西庄 栄養調理コース2年生8名
活動内容	市民センターにて材料の計量、下準備を行ない、事前に制作したパワーポイントを使用して当日使用する食材の簡単なクイズ等を行なった。下地准教授が簡単に調理の説明をした後、各グループに分かれて実習（総数19名）。1グループに学生が2名ずつついた。学生はそれぞれに声かけをしながら小学生に指示を出していた。皆で試食後片づけを行ない、解散とした。
反省・コメント	今年の参加者は低学年と高学年ともに多く、各グループにリーダーシップをとってくれる小学生がおり、低学年と協力して積極的に参加してくれた。学生たちと話ながら楽しく実習もでき、けがなく終了した。料理は、巻いたり包んだりするものが多く、工作感覚でできたのかとても楽しそうに調理をしてくれていた。学生たちは小学生のレベルに合わせた献立を作成することの大切さや、教えることの難しさを学んだと思う。
添付書類	（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方8

活動名	佐方子ども餅つき大会
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 昨年に引き続き本行事に参加
日時	2017年11月23日 8:30-13:30
活動拠点	佐方八幡神社境内
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	責任者：★石永正隆 人間生活学科1年1名、臨床検査学科1年2名 食物栄養学科及他のイベントと重なり参加出来ないということであった。
活動内容	11月23日に佐方子ども餅つき大会に参加しました。豚汁用の食材の調理や泥の付いたさつまいもの水洗いを行いました。餅つきの体験も行いました。100名以上の子ども達が参加し、豚汁、焼き芋、紅白のお餅が子ども達に振る舞われました。寒かったですが、大勢の人で賑わいとっても楽しかったようです。寒い中また冷たい水にもかかわらず喜んで仕事をしてくれたことに対して自治会の担当者から繰り返しお礼の言葉を頂きました。ノロウイルス対策もしっかりなされていました。
反省・コメント （学生の感想も含めて）	水洗いのために厚めのゴム手袋を次回から用意するようになりたい。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

佐方9

活動名	佐方とんど祭
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとしてとんど祭りへボランティアとして参加
共催団体名および共催の経緯	主催：佐方自治会 経緯：継続
日時	2018年1月13日8時00分から16時30分 午前：豚汁調理 午後：本番
活動拠点	佐方小学校 校庭
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	教員★石永教授 学生：人間生活学科2年2名、食物栄養学科2年2名、1年4名 臨床検査学科1年2名
活動内容	午前：豚汁調理 6名 午後：とんど祭本番 6名
反省・コメント等	佐方とんど祭(1月13日)が佐方小学校校庭で開催され、午前中の豚汁調理に6名が手伝い、午後の祭り本番では、受付や豚汁等食品の販売の手伝いを行った。 早朝から手伝ったことや昨年より多くの学生が手伝ったことに対して自治会の方やお手伝いに来ていたご婦人達からお礼の言葉をたくさん頂いた。(簡易のマスク・帽子・エプロン・手袋を着用)
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

佐方10

活動名	夏休みチャレンジ子ども教室
目的または趣旨	佐方市民センターの行事への参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方市民センター・佐方小学校学校支援地域本部
年・日時～年・日時	2017年8月21日～25日 9:00-12:00
活動拠点	佐方市民センター・佐方小学校
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	食物栄養学科1名
活動内容	対象者は佐方小学校児童であった。本学からは支援者として1名参加した。自由研究や工作などのお手伝い。
反省・コメント (学生の感想も含めて)	楽しく・貴重な体験をしたということであった。後日担当者の方からお礼の言葉を頂いた。 早くから募集をかけていたが、夏休み期間中ということもあって、参加者は1名にとどまった。
添付書類	(有 (無))



地域貢献・地域連携活動報告

4-1

活動名	インターンシップ
目的または趣旨	社会人としてのマナーを身につけるとともに、職業観や職業意識を高め、キャリアアップの醸成をはかる。
活動拠点	①地域活動支援センターⅢ型 Cross Road ②社会福祉法人 雲南ひまわり福祉会 ひなたぼっこすき ③有限会社 和洋菓子ながお
期日(期間)	①・8月21日(月)・22日(火)・24日(木)・25日(金) ・9月4日(月)・5日(火)・7日(木)・8日(金) ・9月11日(月)・12日(火)・14日(木)・15日(金) ②8月25日(金)、28日(月)～8月30日(水) ③8月21日(月)～8月24日(木)
参加者	人間生活学科人間心理コース学生5名
活動内容	受け入れ施設・企業によって内容が違う。①～②では、作業の手伝い、利用者との語りなどが中心。③では、袋詰めや菓子製造補助、接客を行った。
反省・コメント等	福祉施設でインターンシップをした学生たちは、いろいろな障がいをもった方と接して、コミュニケーションのとり方の難しさと大切さを学び、また指導員の方からもさまざまな体験談を聞き、貴重な体験をした。お菓子屋さんでインターンシップをした学生は、仕事内容や仕事の流れが勉強でき、菓子製造がやりがいのある仕事であると感じた。仕事を通して、普段の授業では学ぶことができない体験を得たようである。
添付書類	無



地域貢献・地域連携活動報告

4 - 2

活動名	医療事務職員のスキルアップ勉強会
目的または趣旨	廿日市地域の医療機関の事務職員（医事課員、診療情報管理士等）のスキルアップのための勉強会を、2ヶ月毎に行う。本学教員が会長・事務局を務める「広島診療情報勉強会」と連携して行う
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が会長・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	2017年4月～2018年3月
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数） *学生：講演会に参加	教員：★有吉 澄江 学生：専攻科 診療情報管理専攻 学生 人間生活学科医療事務情報コース 学生
活動内容	事例発表、意見交換など、廿日市市内の医療機関事務職員のスキルアップのための勉強会を開催している。
反省・コメント	本勉強会は、22年目を迎えている。毎回、多数の参加者があり、活発な活動を継続している。
添付書類	無



地域貢献・地域連携活動報告

5-4

活動名	スギ花粉の飛散状況調査
目的または趣旨	春には毎年スギ花粉が飛散し、アレルギーで悩まれている。廿日市佐方（本学）地区での飛散状況を調査する。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	本学臨床棟屋上に花粉採取器を設置し、2月3日から開始した。
年・日時～年・日時	2018年2月3日（土）～3月31日（土）
活動拠点	山陽女子短期大学 臨床検査学科
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	林田静枝・岡村美和 学生 臨床検査学科2年 1名（松田）
活動内容	臨床検査学科棟屋上に設置されたダーラム型花粉捕集器に設置した捕集器にワセリンを塗布した採取用スライドを1日1回取り替えて、カルベラ液で染色し1cm ² 中のスギ花粉数を顕微鏡にて計測する。今年度飛散開始は広島県・山口県ともに2月16日（金）であったが、本学も同日であった。この日の中国地区は気温が上昇し、広島も最高15℃で小春日和であった。2月の平均は4.5個/m ³ (広島6.3個/m ³ 、山口40.9個/m ³)であり、3月は35.8個/m ³ (広島38.4個/m ³ 、山口87.1個/m ³)であり、例年は山口県に近い値であったが、今年度は広島に近い値であった。環境省が計測を精密な機器に変え機器の設置が可能な施設に変更したことによる。飛散が多い時期は3月上旬～中旬であった。
反省・コメント	今後、全国調査が精密な計測機になり、結果の比較が難しくなる事が予測できるが、廿日市佐方地区での飛散開始時期、飛散が多い時期はつかめると思っている。
添付書類	無



地域貢献・地域連携活動報告

6-2

活動名	地場産業との連携による商品開発
目的または趣旨	<p>廿日市市や県内の事業者と連携して新商品を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度ひろしま地域食材 PR 促進事業 ・宮島 SA 下り (株)広電宮島ガーデン) とのレストランメニュー開発 ・濱本水産(株)との共同研究 ・倉橋島海産(株)との共同研究
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	<p>共催：廿日市市・吉和「魅惑の里」、(株)広電宮島ガーデン、濱本水産(株)、倉橋島海産(株)</p> <p>吉和「魅惑の里」からのルバーブ加工品の相談 (H29 年 4 月)、宮島 SA (下り) からメニュー開発の依頼 (H29 年 2 月)、濱本水産(株)からナマコの加工依頼 (H28 年 4 月)、倉橋島海産(株)からのかきの魚醤の開発依頼 (H28 年 4 月) がありそれぞれについて、技術支援を行った。</p>
年・日時	2017 年度
活動拠点	山陽女子短期大学 岡崎研究室
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	<p>全体の責任者：岡崎教授</p> <p>食物栄養学科 食品開発コース及び栄養管理コースの学生</p>
活動内容	添付書類参照
反省・コメント	添付書類参照
添付書類	(有) 無)

2017 年度地域連携センター産学連携部門連携事業報告

産学連携部門長 岡崎 尚

1 平成 29 年度ひろしま地域食材 PR 促進事業(ひろしま地産地消推進協議会・広島県)

食物栄養学科食品開発コース(岡崎教授)による取り組み

廿日市市吉和の「ルバーブの食材としての活用とそのレシピ開発」を平成 28 年度に引き続き実施した。

吉和「魅惑の里」(廿日市市環境産業部吉和魅惑の里企画室(則武氏)の協力を得て実施した。

活動状況:ルバーブソースをパウチ詰として試作し、各種和洋菓子の素材として提案。

小学校、商工会などへの広がり及び平成 30 年度製品化の取り組みを進めている。



2 宮島 SA 下り(株)広電宮島ガーデン)とのレストランメニュー開発

食物栄養学科栄養管理コース(平林教授)の学生による取り組み

平成 29 年 2 月に表記内容について廿日市市を通して協力依頼があり、栄養豊富な低塩メニューを開発した。平成 30 年 3 月中旬に「三女神 みやじま御前」との名称でレストランメニューとしてスタートし、現在安定した売上がある(宮島 SA 下り店長)。

(株)広電宮島ガーデンとの共同開発で栄養価の高い低塩メニューの開発・販売に至った。

〈本学ホームページによる紹介記事〉

廿日市市を通してレストランメニューの共同開発の依頼が平成 29 年 2 月 24 日にありました。若い女性の視点で、栄養面の工夫も入れて、など課題をいただきコラボ事業がスタートしました。栄養管理コースの先生と学生たちが考えたメニューをベースにレストランメニューを仕上げました。レストランの藤井料理長と栄養・低塩など入念な打ち合わせを行いました。

～三女神～みやじま御膳と名前が決まりました。

私たちの山陽女子短期大学乙女も三女(sanjo)にあやかりたいものです。

宮島方面に行く機会がありましたら、宮島サービスエリア(下り)レストランにて学生の開発したメニュー【三女神みやじま御膳】を是非食べてみて下さい!!



3 濱本水産(株)との共同研究

食物栄養学科食品開発コース（岡崎教授）による取り組み

地域食材であるナマコ、ムール貝、アサリの加工品の品質改善を実施

活動状況：スライスナマコの消費期限延長及びムール貝の冷凍加工品の品質改善を実施した。



4 倉橋島海産(株)との共同開発

平成 28 年から継続してかきの魚醤の開発を支援した。酵素分解及び熟成操作、沈殿物の除去など技術的な課題を解決し、商品名「かき美醬」として平成 29 年 10 月から販売された。コンスタントな売れ行き及び「かき美醬」を調味料とした商品開発の依頼もあり、平成 30 年度からは量産化に取り組んでおり、その技術的な支援を行っている。

なお、本開発品は、従来のかき醤油とは全く異なる商品であり、大豆醤油とのブレンドは一切おこなっていない。主原料のかきを酵素で分解した魚醤の一種である。

この『かき美醬(10 月中旬発売)』は「広島かき」を主原料にした魚醤(低塩分)で、2016 年から倉橋島海産(株)(呉市)と本学 食物栄養学科食品開発コースの学生が共同研究してきました。

学生たちが、かき魚醤の調理への適性や様々な料理のうま味調味料として使用できることを調べたことも商品研究に生かされていますので、ぜひご購入ください。

また、これから広島の特産品として広まっていくことを願っています。

『かき美醬』の二つの特徴について

- ①かきを酵素で分解しているため、ほとんどが「かき」由来のアミノ酸やペプチドからできており、タウリンもそのまま残っています。
- ②市販の魚醤の塩分は20%以上、大豆醤油は16%程度ですが、『かき美醬』は12%と低塩分となっています。

※ かき魚醤の製造には広島県の食品工業技術センターが開発した特許技術が使用されています



2018年度地域連携センター産業連携部門の予定

山陽女子短期大学 産学連携部門 岡崎 尚

取り組み

- 1 平成30年度ひろしま地域食材PR促進事業（ひろしま地産地消推進協議会・広島県）
 - ・食物栄養学科食品開発コース（岡崎教授）による取り組み
未定、県の予算による

- 2 宮島SA下り（㈱広電宮島ガーデン）とのレストランメニュー開発
 - ・食物栄養学科栄養管理コース（平林教授）の学生による取り組み
未定

- 3 濱本水産㈱との共同研究（新規）
 - ・食物栄養学科食品開発コース（岡崎教授）による取り組み
次年度はナマコ加工品及びムール貝冷凍加工品のHACCP取得を支援（共同研究契約締結予定）

- 4 その他
 - ・ちいさなおはぎ屋(佐伯区五日市中央3-2-24)、寿マナック㈱(佐伯区湯来町大字白砂20-10)
とのコラボ、新しいおはぎの開発
 - ・いずれも廿日市市外



地域貢献・地域連携活動報告

6-3

活動名	乳がん検診啓発運動：ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン
目的または趣旨	広島県は乳がん患者数が全国でワースト4位なので、早期発見早期治療を目指すため、検診の啓蒙活動を行っている。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：NPO 法人未来 経緯：NPO 法人未来の主宰者が廿日市市出身という事とその主宰者と知り合いだったので、協力を依頼された。
年・日時	2017年9月23日
活動拠点	Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理1年5名
活動内容	乳がんに関する展示物やマンモグラフィ、グッズ販売などのコーナーに、カープの試合を見に来た観客を呼び込むために、本学で作ったアレルギー対応のお菓子を配り、勧誘をする。乳がんの検診の受診率が上がるよう、若い人や中年の女性たちに多く声を掛けた。
反省・コメント	今年は、カープがリーグ優勝を決めた後だったので、観客数も多く、300個のお菓子も45分でなくなった。後は声掛けのみであったが、昨年より多くの方が、乳がんのモデル型の触診コーナーで体験をしていた。自己検診を行っていただき早期発見につながれば、勧誘の効果があったと思う。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)



地域貢献・地域連携活動報告

6-4

活動名	世界エイズデー「レッドリボンキャンペーン in 広島」
目的または趣旨	エイズ予防啓発事業
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	広島県臨床検査技師会
日時	2017年12月2日(土)
活動拠点	広島市西新天地公共広場
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	1年生8名
活動内容	街頭でのパンフレット配布、検査の呼び込み
反省・コメント	今回配布物を配るといふこともあり、受け取ってくれない方が多く、全体としてエイズへの知識が低いのかと思いました。呼びかけをしても無料検査に行く方は少なく、私達にできることは、エイズへの関心をもって頂くことと、エイズだからといって差別はしてはいけないということをお伝えたい。
添付書類	(有) (無)

追加 赤十字ボランティアサークル活動の添付

追加 赤十字ボランティアサークルの活動

1. 4月26日(水)に発行された中国新聞

19面に、本校臨床検査学科の学生が「山陽女子短期大学赤十字ボランティアサークル」の活動の一環として、骨髄バンクへのドナー登録を呼びかける運動に参加している様子が掲載されました。



2. 本学 学生サークル『SRV』が感謝状をいただきました！！

10月10日(火) 広島県庁にて「平成29年度臓器移植等推進功労者に対する知事感謝状」の贈呈式が開催され、本学の学生サークル『SRV』(山陽女子短期大学赤十字ボランティアサークル)が参加しました。

SRV では、骨髄バンクドナー登録会のボランティア活動のため、日本骨髄バンクが委嘱する説明員資格を取得して、広島市内で開催されているドナー登録会に参加しています。

学生代表して贈呈式に参加した橋本さんは、「説明員としてどんな人が骨髄移植を必要としているのか、骨髄バンクの存在や内容を知ってもらえるだけでも意味があると感じています。これからも一人でも多くの方に骨髄ドナー登録の必要性を知ってもらえるよう今後も活動に励んでいきたいと思えます。」と湯崎知事に抱負を述べました。

これからもこの活動が引き継がれていくことを願っています。



3. 愛の血液助け合い運動に参加しました!!

7月は「愛の血液助け合い運動」月間として、重点的に献血への協力の呼びかけを行っています。本学も学生ボランティアサークルのメンバーが他大学の学生と協力して広島県警察音楽隊・カラーガード隊と一緒に本通商店街で献血への協力の呼びかけパレードを行いました。

輸血用血液製剤は長期間保存ができないため、年間を通じて安定的に確保することが重要なのですが、現在では献血者数が減少傾向となっています。

そのため、【”一人”でも多くの方に献血の必要性を伝えたい】と本学の学生ボランティアサークルのメンバーもがんばって献血推進活動をしています!!

みなさんもほんのちょっとした勇気を出して『献血』にご協力ください。





地域貢献・地域連携活動報告

6-5

活動名	フードフェスティバルにて焼き菓子の販売
目的または趣旨	広島市中央公園で開催される「ひろしまフードフェスティバル」に、地元の食材を使用した商品を出品し、販売スタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：JA グループ広島 経緯：7月に主催者側から依頼があった。8月22日に来学され、焼き菓子の販売を依頼されたのでスイーツハウスを主体にボランティアを募集した。
年・日時～年・日時	10月26日 9時～17時 制作 10月27日 10時～21時 制作、包装 10月28日 9時～18時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売 10月29日 9時～18時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売
活動拠点	広島市中央公園
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★西庄 26日：中尾准教授、津村講師、★西庄 食物栄養学科 1年 42名 27日：中尾准教授、★西庄 食物栄養学科 2年生 10名、1年生 7名 28日：鈴木教授、濱本助手、★西庄 食物栄養学科 2年生 6名、人間生活学科 1年生 1名 29日：岡崎教授、泉助手、★西庄 食物栄養学科 2年生 5名、1年生 2名
活動内容	26日：さつま芋パウンドケーキ、米粉ガトーショコラ、スノーボールを作成。 27日：レモンシフォンケーキ、スノーボールを制作。ポスターの制作、包装。おからドーナツの計量。 28日：焼き菓子の販売と現地でおからドーナツの実演販売。焼き菓子は夕方前に完売、ドーナツは悪天候と値段設定が高く売れ行きは悪かった。 29日：前日と同じ内容で販売。焼き菓子は昼過ぎぐらいに完売し、実演販売は17時まで行なった。
反省・コメント	天候が両日も悪かったため、例年早い段階で売り切れる焼き菓子も夕方ぐらいまで残っていた。ドーナツは改良を行ない、昨年より値段を下げたが売れ行きが悪かった。今年度も参加学生をボランティアで募集したが、伝達がうまくいっておらず、参加人数がとてもしなかつた。台風の影響で地面が浸水したり、風でテントがあおられたりととても大変だった。2日目は浸水がひどく、場所を変更していただいた。火や油を使用するので地面が悪い時や風が強いときは安全対策をしっかり行いたいと思った。
添付書類	(有) (無)



地域貢献・地域連携活動報告

6-6 (1)

活動名	廿日市市消防団「機能別団員」
目的または趣旨	地震や豪雨などによる災害時に避難所の運営や救護活動などを担う(機能別団員で任務が後方支援などに限定される)
主催団体名	廿日市市消防署
期日(期間)	2017年4月1日～
活動拠点	廿日市市
参加者	入団式: 4月8日(土) 学長、学生部長 入団者: 臨床検査学科10名
活動内容	廿日市市消防本部にて、廿日市市消防団「機能別団員」の発足式が執り行われました。「機能別団員」とは、任務が後方支援などに限定されるもので、地震や豪雨などによる災害時に避難所の運営や救護活動などを担うものです。
反省・コメント等	学生のコメント 私たちは、団員の活動を通して大学では得られない経験をしながら、将来、医療現場で働く中で大いに役立つと考えています。発足式にあたり廿日市市消防署の規律下、ご指導を仰ぎながら各自が強い意志を持って、地域の安心・安全に貢献出来ればと、その決意を新たにしました。
添付書類	有





地域貢献・地域連携活動報告

6-6 (2)

活動名	廿日市市消防団「機能別団員」
目的または趣旨	廿日市市消防出初式の参加
主催団体名	廿日市市消防署
期日（期間）	2018年1月14日（日）
活動拠点	廿日市市
参加者	廿日市市消防団「機能別消防団員」：臨床検査学科10名
活動内容	平成30年廿日市市消防出初式に廿日市市消防団「機能別消防団員」として登録・活動している本学学生10名が参加しました
反省・コメント等	
添付書類	有



平成29(2017)年度
廿日市市との包括的連携協定に伴う
地域連携センター活動報告書

2018年6月30日発行

発行者 山陽女子短期大学
地域連携センター
広島県廿日市市佐方本町1番1号
電話 0829-32-0909

印刷所 株式会社ニシキプリント
広島市西区商工センター7丁目5番33号
電話 082-277-6954
